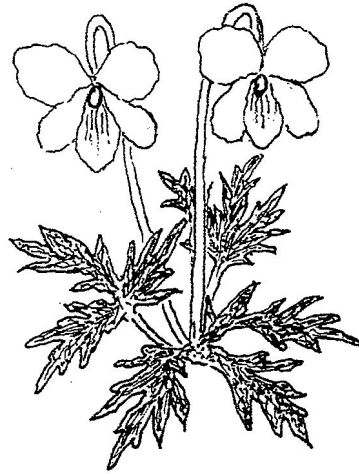


# われもこつ 第36号

2015年4月21日 発行

自宅の庭は山野草の宝庫！  
そんなわれもこつの会ベテラン会員に聞きました。

『山野草の魅力を教えて！』



エイザンスミレ  
(スミレ科)

◆山野草は派手な目立つ色ではありませんが、近くで見ると可憐でけなげ、繊細な感じが好きなのです。庭に普通にある植物が実は絶滅危惧種だったり…。それを知って環境を変えず大切に守っていききたいと思います。

しかもあまり手をかけなくても翌年必ず芽を出してくれるところがさらにけなげ！◎◆



アズマイチゲ  
(キンポウゲ科)

◆毎年四月末頃にいつもの庭の定位置に我が家の山野草一番手アズマイチゲが咲いているのを見つけて嬉しい季節到来と感激します。そして順に何種類かの花が咲き楽しみの日々です。◎◆

全国の「軽井沢」を訪ねて……………p.3

要注意外来生物 アカボシゴマダラ <栗岩 竜雄>……………p.4

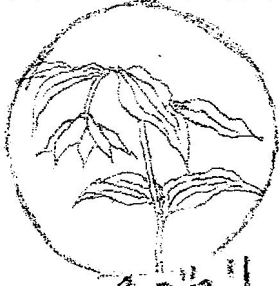
無視できない虫新聞/会員の声 「はじめまして!」……………p.6

# 山野草の魅力を教えてください！

◆いろいろなアンケート調査で軽井沢の魅力の一つに必ず挙げられるのが「豊かな自然」。

豊かな自然とは取りも直さず昔から連綿と続く自然環境で、ここに昔から自生する植生もその一つです。別荘地の我が家では周囲の環境に違和感なく溶け込む山野草をメインに庭づくりをしています。

また山野草の花色の7〜8割が白色系と言われ、人工的に作られた鮮やかな花色とは異にします。山野草のやさしい色合いは周囲の木々の緑とマッチします。①◆



フクロアネモネ  
(フクロアネモネ科)

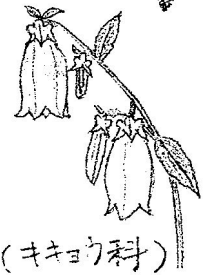
庭にルリソウがあったらぜひ種の収穫に挑戦してみてください。



(ムラサキ科)

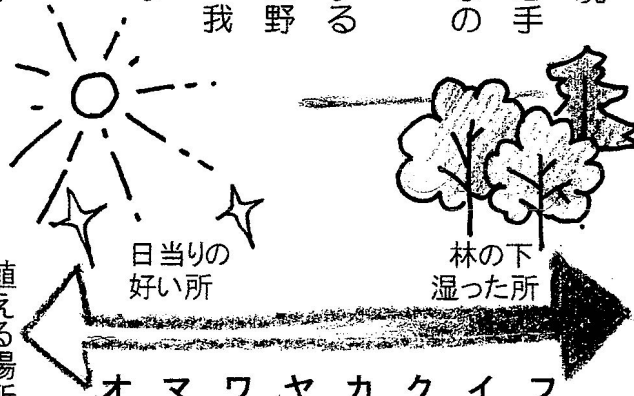
ルリソウはタコの吸盤のような種がポロっと落ちる頃、親株のまわりに蒔いておきます。湿り気のあるふかふかした腐葉土のような場所を好みます。②

ヤマホタルブクロは移植に強く、繁殖力旺盛です。根茎やこぼれ種からも増えていきます。③



(キキョウ科)

◆軽井沢に自生していた山野草は環境が合えば勝手に増えていき、それほど手がかかりません。ほとんどが宿根草なので大株に育っていくのも楽しみです。木の枝をはらい、雑木や藪を整理すると、日当たりが良くなった地面から山野草が発芽して花を咲かせてくれます。我が家ではアズマレイジンソウやサラシナシヨウマが出てきました。④◆



- フシゲロセンノウ
- イワタバコ ミスミソウ
- クリンソウ
- カントウタンポポ
- ヤマホタルブクロ
- ワレモコウ
- マツムシソウ
- オミナエシ

植える場所がぴったり合えば、こぼれ種から増えていきます！

## 種から育てるぞ

花が咲くまで数年かかることも。

そこでわれもここの会の会員から苗をプレゼント！ 山野草初心者にも育てやすい花、いろいろあります。

まずは、われもここの会の原っぱにお越し下さい。時間があつたら作業にも参加して下さい。(日時・作業場所は裏表紙参照)

苗の受け渡しは後日になります。

⑤先着順。それぞれ数に限りがあります。

## 全国の「軽井沢」を訪ねて

「この山の奥に軽井沢というところがあるはずですが、行き方をご存知でしょうか？」と私。「エッ、軽井沢へ？ いったい何しに行くの？ 集落が昔はあったが今は何もないよ。」と路傍で会った現地の人。・・・これは山形県のある山村で「軽井沢」への道を聞いた時のやり取りです。

「軽井沢」という地名は東日本に比較的多い地名です。近いところでは上田市真田の近く、地蔵峠の麓に入軽井沢という集落がありますが、これは明治の初めまで軽井沢村があった名残です。長野市の西のはずれにも「軽井沢」という集落があります。横浜にも「軽井沢」があります。駅から歩いて十分くらいの昔の東海道沿いです。全国では約50の軽井沢があり、私はその内の約30を訪ね歩いてきました。

意外に多い「軽井沢」地名  
多くは、峠のふもと、あるいは  
大河に沿った湿地など、辺鄙  
なところにある。



大方の軽井沢は、冒頭のやり取りほどではないとしても、ひなびた交通の不便なところに多く、そう遠くない内に廃村になりそうな集落も少なくありません。「軽井沢」は何となく華やかなイメージがありますから、山の中の僻地で、看板などに「軽井沢」の三文字を見ると何とも言えない不思議な思いにとらわれます。

軽井沢地名のおこりは、各地を歩いてみた結果、「背負い沢」だと私は考えています。

今も九州、山口などでは背負うことをカルウ（荷るう）といいます。古くはカルフといいました。形容詞型は「カルヒ」となりますから、背負い沢は「カルヒサワ」であり、これが訛って「カルイサワ」となると推定します。我らの軽井沢においては、馬に荷物を背負わせ、荒れた碓氷峠路を越えさせることが難しく、一部を人が背負った

たのでしょう。横浜の場合は、泥濘の湿地を人が馬の荷を肩代わりしたに違いありません。また川の上流のどん詰まりで、舟の荷物を人の背に載せた「軽井沢」も多かったはずですが。

我が軽井沢の隣り合う宿場は、長野県側は追分・沓掛であり、群馬県側は坂本です。坂本も「峠の下」という意味ですから、いずれも交通に関係した地名です。軽井沢も同じと考えるのが自然でしょう。

Y. E.

## 要注意外来生物 アカボシゴマダラ

栗岩 竜雄

すでに新聞掲載されたのでご存知の方もいらっしやることでしょう。要注意外来生物の「アカボシゴマダラ」という蝶が軽井沢でも確認されました。外来生物と言ってもこの蝶の場合、ややこしい補足が必要です。実は在来種として日本国内では奄美大島や徳之島に生息しており、それらの個体群（奄美亜種）は環境省が準絶滅危惧種にリストしているのです。今回軽井沢で見つかったアカボシゴマダラは中国大陸亜種で、奄美産が自力で移動してきたわけではありません。何者かが人為的に大陸から移入させ、本来生息していない関東地方を中心に分布を広げさせてしまったのです。その繁殖力は強く、長野県内に入るのは時間の問題だと思っていたところ、昨年（二〇一四年）八月、ついに現実のものになりました。

蝶という生き物は基本的に人間に危害を与えたりしないので、ムキになって駆除することはないと考えられがちですが、自然界

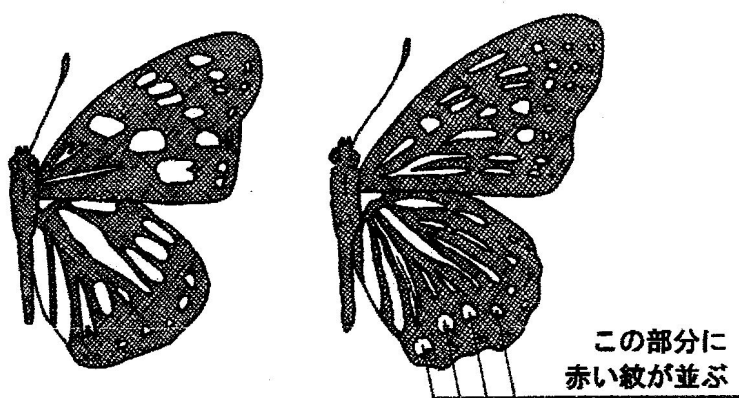
においては食草を巡って幼虫が競合し、場合によっては在来種に悪影響が生じます。

ここで名前を挙げなければならぬ蝶が、オオムラサキやゴマダラチョウといった在来種。エノキ科の樹木エノキ（またはエゾエノキ）が食草です。一方アカボシゴマダラ本来の食草は同じエノキ科のリユウキウエノキ。ですが普通のエノキでも代用できてしまい、ここで幼虫同士が競合すれば生態系のバランスを崩しかねないので、

したがって速やかにアカボシゴマダラは駆除する必要がありますが、もはや増殖し切った関東での例を見ると、作業が追いつかない…、あるいはダメーシについて、そもそもデータがない…、などの理由で思うように進んでいない実態があります。外来種アカボシゴマダラの侵入に至り、初めて在来種ゴマダラチョウのデータ取りを始める…。そんな事情が垣間見られます。

見た目には美しいアカボシゴマダラ。時に勇ましく、時に凛としてナフバリを作り、一定の空域を占有します。表面的には何ら他の蝶と変わらない気がします。しかし複数の生物種を巻き込む自然界の立体的な結びつきに目を向けると、本質的な環境保

全は成り立ちません。アカボシゴマダラは比較的他種との見分けは容易ですので、左に特徴を図示しておきます。花で蜜を吸うことはなく、樹液とか果実の腐汁などに来ると言われています。また午前中は不活発で、午後、それも夕方に向けて活発に飛び回ります。軽井沢では昨年（二〇一四年）八月～九月にかけての夏型しかまだ記録はありませんが、関東では五月～六月に春型も発生しています。少なくとも毎年二回世代交代する蝶です。



在来種ゴマダラチョウ(左)と外来種アカボシゴマダラ(右)ゴマダラチョウは黒地に白紋というシンプルな色彩構成。アカボシゴマダラはこれに赤い紋が加わります。白斑も細かい。他に近似種はなく、図示した赤い紋(4つ並ぶ)の特徴だけで充分識別できます。

同じく蝶での要注意外来生物「ホソオチヨウ」。こちらの食草はウマノスズクサで、軽井沢にはなく、競合する在来種ジャコウアゲハも町内では見られません。ホソオチヨウは食草の茂る場所に集中し、駆除しやすい種ですが、アカボシゴマダラはひとたび拡散すると困り込みは難しいと思われるかもしれません。それでも蝶なら目立ちますが、ハエや力など小さな昆虫だと発見しづらくて危険。気づかないうちに車や電車、航空機や船舶等にまぎれ込み、思いがけず遠方に運ばれて放される場合があります。そこまで深刻でなくても日常的に車の中でハエや力を見つけることはありませんか？人間の移動手段に乗じて昆虫も日々移動しているのです。自力で飛翔できる距離を越えて昆虫が分布を広げる背景には、無意識に人間が関与していることも多々論じられています。

しかしながら外来種が全て悪との決めつけは尚早で、植物では農作物や薬草として役立つ種も多く、野生化したり交雑したりしないよう、きちんと管理されていることが重要と言えます。

【くりいわ・たつを 蝶の写真家 軽井沢在住】

※次の図はいずれも終齢幼虫の特徴。食草のエノキは町内の山林に点在していますが、確実に実物を見るなら町立植物園にありますので参考にして下さい。

オオムラサキ



背中突起は4つでほぼ同じ大きさ。しっぽは分かれる。

ゴマダラチョウ



背中突起は3つでしっぽは分かれる。

アカボシゴマダラ



背中突起は4つで丸みがあり、3番目が大きい。しっぽは閉じている。

中部小学校の軽井沢自然クラブ

昨年のクラブの目標は「軽井沢の自然を楽しみ、軽井沢の自然を大切にしよう」ということでスタート。クラブ員は、4年生から6年生の総勢十八名。六月から十一月の間、八回のクラブ活動を実施。講師は、蝶の専門家の栗岩竜雄先生を中心に我等応援隊（洋子ちゃん、丸さん、玉ちゃん、つちー）四名が、植物図鑑、昆虫網、虫かごなどを抱え、子供達と一緒に昆虫採集したり花を摘んだりしました。研究場所は、馬取、千ヶ滝、発地地区などで、みんなワイワイ言いながら元気に飛び跳ね勉強しました。教室に帰ってからは、昆虫、花などの標本作りに夢中になっていました。また昨年は、軽井沢の自然をもっと勉強しようということで、栗岩先生の発案で教室での勉強会を行いました。それは①「特定外来生物の問題」と②「浅間山の成り立ち」です。①については、外来生物を「入れない、捨てない、拡げない」という三原則を守ることの重要性を学び、②では、約二万八千年前からの活発な噴火の繰り返しにより、現在の浅間山、前掛山、黒班山、石尊山、小浅間山などが出来たという歴史、を改めて学びました。子供達はこの二点について、みんな真剣に栗岩先生のお話に耳を傾けていました。今年も外での活動の他、昨年の様な教室での勉強会も実施してゆきたいと考えています。

土屋忠史

## 無視できない虫新聞

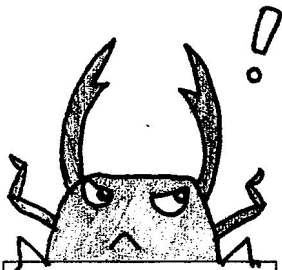
栗岩先生、中部小最後の『軽井沢自然クラブ』から半年になりましたが、お元気ですか？

僕は、この四月から、早起きと宿題と虫採りと…充実した中学生活を送っています。

カレンダーでは春になりましたが、なかなか春限定の蝶が飛び始めませんね。雪が降ったり雷が降ったり、異常気象だから…？

でも、カタテハとモンキチョウ、サナエトンボの姿は見ました。早く春の訪れを感じるウスバアゲハとツマキチョウを採取したいです。

そして、また、栗岩先生にお会いして、昆虫のお話を聞きたいです。  
五井野響太郎



「無視できない虫新聞」は五井野君が2014年8月、小学生の時に書いたものです。

(編集室注)

○軽井沢でオオクワガタ見つかる！

…発見の喜びと現実の悲しみ…

去年8月、長野県軽井沢町で、オオクワガタのメスが発見された。軽井沢のオオクワガタ発見記録を新しくぬりかえた。

しかし、オオクワガタは、軽井沢町には分布しておらず、軽井沢町外から持ち込まれた外来種である。

この事態について、軽井沢の昆虫を調査している五井野響太郎氏(二二)は、「虫を飼うルールとして飼っている虫をむやみに自然へ放さないでください。特に外国産昆虫など、この地域に住んでいければ良いな、そう思う虫でも、その地域にいない虫は絶対に放さないでください。」と、全国に呼びかけると同時に、「その地域にいない虫を屋外で見つけたら、捕まえて飼つてあげるか、もともと住んでいる場所に返してあげてください。」とも呼びかけている。

○ゲンゴロウ生息地増す

絶滅危惧種に指定されているゲンゴロウ。

昨年7月、軽井沢ネイチャークラブの田んぼでゲンゴロウのオスが発見された。さらにゲンゴロウの幼虫も発見されている。発見者は、五井野響太郎(二二)で、「とても大きかったので驚いた。」と話している。

その田んぼには、以前から、ミズカマキリ、タイコウチ、ガムシ、コシマゲゲンゴロウなど多くの生物が住んでおり、「タガメがいてもおかしくない環境だと思ふ。見つけたい。」とも、話している。

## 会員の声

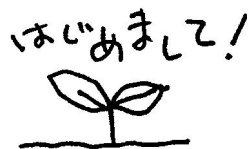
はじめてました！

昔は軽井沢のいたるところで山野草が咲いていたが、今は森が広がって地面が暗くなり、昔ながらの花々が絶えてしまっているという。かといって年に数回ほど狭い軽井沢のわれもここの会の土地を活性化させる努力が水泡の如くであることもよく解っている。が何もしないよりはいい。軽井沢の人たちと言葉を交わして、何よりも自分の庭だけは雑草を生やさない努力と、新しい山野草を増やす努力をすることが出来る。

昨年入会時は意気込んで毎回参加などと思っていたが、やはり半分も参加できなく反省しきり、まあでも意気込まず、先輩に教えを乞いながら少しずつ交わっていききたいこの頃である。

この冬、たまたま南フランス、ヴァルディゼールというスキー場を訪れた。知る人ぞ知るといふ通の人が行くスキー場とのこと、登山電車、無料シャトルバスなどの交通が完備し、景観の統一が図られているなど、日本のリゾート地が学

# 会員の声



「われもこう」の皆さん、はじめまして。  
田口友己（たぐちともみ）と申します。

昨年より妻も会に入れさせて頂いていますが、今回は私の紹介とさせて頂きます。

生まれも育ちも東京の片隅の足立区、しかも埼玉県に近い足立区です。父親と母親の実家は農家で、春は馬の代掻きや秋は稲刈りをするのを見て育ちました。

かつての足立区は今の追分よりも田舎で一面田んぼと畑のみで、今風に言えば自然豊かな環境に住んでいました。

たぶんそんな環境で育ったせいか、退職後は都市化という変わり果てた姿の足立区、東京を見限り、幸いなことに移住には妻も同意してくれたので、少しは自然に恵まれた土地を色々と求めていました。

職場の同僚は退職後の棲家を千葉や静岡等にしていますが、我夫婦は山登りができる長野県と決めていて、たまたまの縁があり追分の借宿に昨年より住むようになりました。（今は週末だけで来年から定住です）

しかし、何か特段の目的があって移住してきた訳ではないので特にすることはありません。要は退職後の日々の暇をどうやって潰して過ごすかということになり、することは読書と体力づくりと庭いじりくらいです。

我が家の敷地は畑地にある山林を切り開かれたもので、そこにハルジオンが一面にはびこっているだけなもので、これをどうにかしたいと思っていました。

そのような中で、「われもこうの会」には、「草むしり」という私にとっては世の中に役立つ「暇つぶし」があり（申し訳ありません）、かつ山野草に精通した方々と一緒になればいろいろと教えて頂き、いずれ庭いじりに役立つかなというよこしまな考えで入会させて頂きました。

軽井沢の自生の花が咲き乱れ（実際はどのような花が良いのかよく分からないのですが教えて下さい）、様々なシジミチョウやマルハナバチなどが飛んでいる庭ができればと夢想しています。

色々とご指導とそしてご厚誼を妻共々よろしくお願いいたします。 田口友己



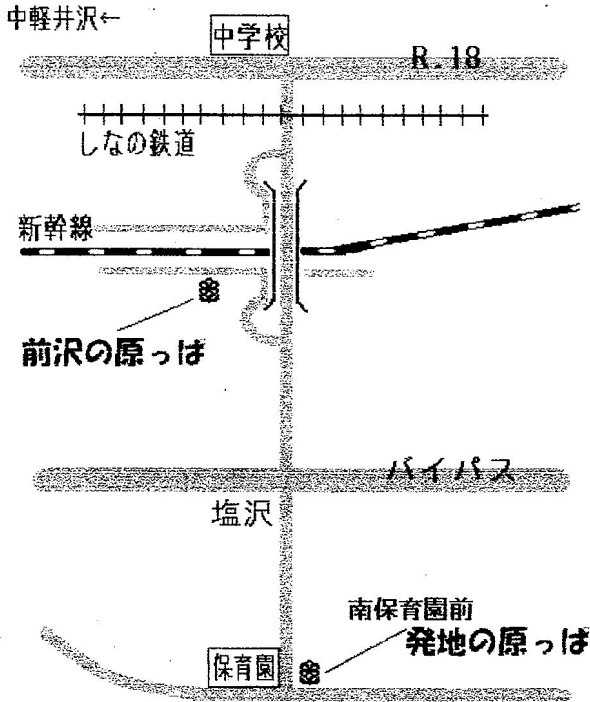
ばねばならないことも多い。日本より雪は少なかったが、頂上三〇〇〇メートル近くは素晴らしく上質の雪で覆われて（造雪機はいたるところにあった）たいしてうまくないスキーヤーの自分ですら感動の連続であった。春から夏にかけて素晴らしいお花畑が広がるという。加齢現象は誰にでも等しく訪れる。夏の間はどんな運動でも出来るが冬のスポーツがなかなか難しい。二〇年ほど前から初めたスキー、美しく滑りたいと欲を持った。野の花が其処にあって美しいように、白い雪と一体となって華麗にすべりたい。加齢は止めることが出来ないけれど、努力で華麗なスキーのすべりをマスターしていくことは出来る。そんな思いで始めた冬のスキーは私にとって花への助走、短いような、でも軽井沢の人々にとっては長い冬の期間、私は軽井沢のスキー場にせつせと通う。一歩でも華麗なすべりに近づくように。そして近い将来、今度は花に囲まれたヨーロッパアルプスの山々を訪ねてみたい。日本との違いをこの目で確かめることがきつと出来るであろうから。 三原 静子



# 空き地に花を！



われもこの会の原っぱで野の花の世話をしませんか？  
オミナエシやマツムシソウ、アサマキスゲ、ワレモコウ、キキョウなどなど、昔から軽井沢の草原に咲いていた野の花を増やす活動をしています。作業のあとのティータイムがいつもみんなのお楽しみ！



- 持ち物：日除けの帽子、園芸用手袋、スコップや草刈り鎌、水筒（熱中症予防に）
- 会員以外の方の参加、大歓迎！

2015年の作業予定	
5月10日(日)	
27日(水)	
6月7日(日)	
17日(水)	
28日(日)	
7月8日(水)	
12日(日)	
22日(水)	
8月2日(日)	
26日(水)	
9月6日(日)	
16日(水)	
10月4日(日)	
14日(水)	
11月8日(日)	

- 日曜日は発地の原っぱ、
- 水曜日は前沢の原っぱ

午後1時30分 集合  
作業の進行状況等により移動することもあります。

●雨天中止になることもあります。☂

土いじりが好き、外で体を動かすのが好き、野の花が好き、という方はもちろん、時間はあまりないけど応援したいという方も。  
**会員募集中！**です。  
◆年会費 1,000円  
(65歳以上の方、18歳未満の方は500円)。

◆◆◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆◆◆  
今年3月の終わり頃、ウグイスの声を聞き例年より早く春が来た！と思っていたら、4月の長雨。庭仕事も始められず、編集作業もなかなかはかどらず。結局4月下旬になって印刷となりました。皆さん、締切を守って原稿を書いて下さったのに…。お待たせしました！  
◆◆◆◆◆